

# 1 基盤創出看護学領域 研究指導教員

## 田中 幸子 教授

研究計画に沿って看護労働や看護職の人材確保に関する政策過程の歴史の変遷を、公文書、公的データ、オーラルヒストリー等を用いた分析を学修する。さらに現代の看護労働に関する実態調査、及び国内外の潜在看護師の復職支援、就労継続のための健康的な職場環境、中高年のセカンドキャリア等の看護労働政策研究を踏まえて現代の都市型の医療提供体制に相応しい看護労働政策のあり方を考究し、博士論文を作成し自立して研究を推進できる能力を修得し、教育を担い得る能力と共に看護学の発展に寄与する能力を養う。

## 濱田 真由美 准教授

国内外の文献を通じて、看護について哲学的に探究する方途を学修し、関心のある現象について様々な立場から考究することのできる素養を養う。また、医療や女性を取り巻く不平等・権力関係、知がつくられるダイナミクスとその影響を理解し、臨床課題に取り組むための質的研究方法論について学びを深める。これらを通じて、看護学の発展に寄与する研究者として自立した研究活動、教育を行うための能力と学識を養う。

## 2 先進治療看護学領域 研究指導教員

### 望月 留加 准教授

がん患者や家族の生活を支援し、生き方を選択していくプロセスに寄り添うために、セルフマネジメントや心理社会的苦痛に対する支援モデルの開発等をケア評価のための指標の開発も含めて研究を行う。また、今後のがん医療・看護に必要な先駆的分野に関わる現象の探求や実践的研究につながる質的研究についても学修し、博士論文を作成し自立して研究を推進できる能力を共に、教育を担い得る能力、看護学の発展に寄与する能力を養う。

### 3 予防推進看護学領域 研究指導教員

#### 梶井 文子 教授

老年期の健康、家族ならびに学際的な課題について、実践的に解決できる研究成果を目指すため、関係する諸理論や老年医学・看護学・他の学際的な知識を活用し、国内外の先行研究から研究課題を明確にし、多変量解析を用いた統計学的手法や質的帰納的研究方法を組み合わせる方法を用いて、研究の実践課程を踏まえて、博士論文を作成し自立して研究を推進できる能力を修得し、教育を担い得る能力と共に、看護学の発展に寄与する能力を養う。

#### 松永 佳子 教授

母性看護学（生涯を通じた女性の健康）の対象である女性とその家族の健康を促進するための支援方法について日本でのエビデンスが提示できるような研究方法（介入をアウトカム指標）を吟味する。そのうえで、研究課題に応じたデータ収集、分析方法を用いて研究を行い、博士論文を作成して、自立して研究を推進できる能力を修得し、教育を担い得る能力と共に看護学の発展に寄与する能力を養う。

## 4 地域包括看護学領域 研究指導教員

### 北 素子 教授

在宅療養者とその家族のQOLの向上に資する新たな支援モデルとアウトカム評価指標の開発につながる研究課題について、質的帰納的研究法と探索的・確証的因子分析法等の統計学的手法を組み合わせ研究を行う。研究成果は国内外の学術誌に発表し、自立して研究を行い、教育を担い得る能力と共に在宅看護学の学問的發展に寄与する能力を養う。

### 嶋澤 順子 教授

在宅精神障害者の地域生活継続を促す看護援助を障害者のセルフケア能力を引き出す側面から行う方法に関する研究課題を、公衆衛生看護学に関する理論的枠組みを活用して、質的帰納的研究方法あるいは量的研究方法など研究課題に即した研究手法を適切に用いて研究の実践を行い、博士論文を作成し自立して研究を推進できる能力を修得し、教育を担い得る能力と共に看護学の發展に寄与する能力を養う。